

桜島のマグマ供給系と噴火事象系統樹

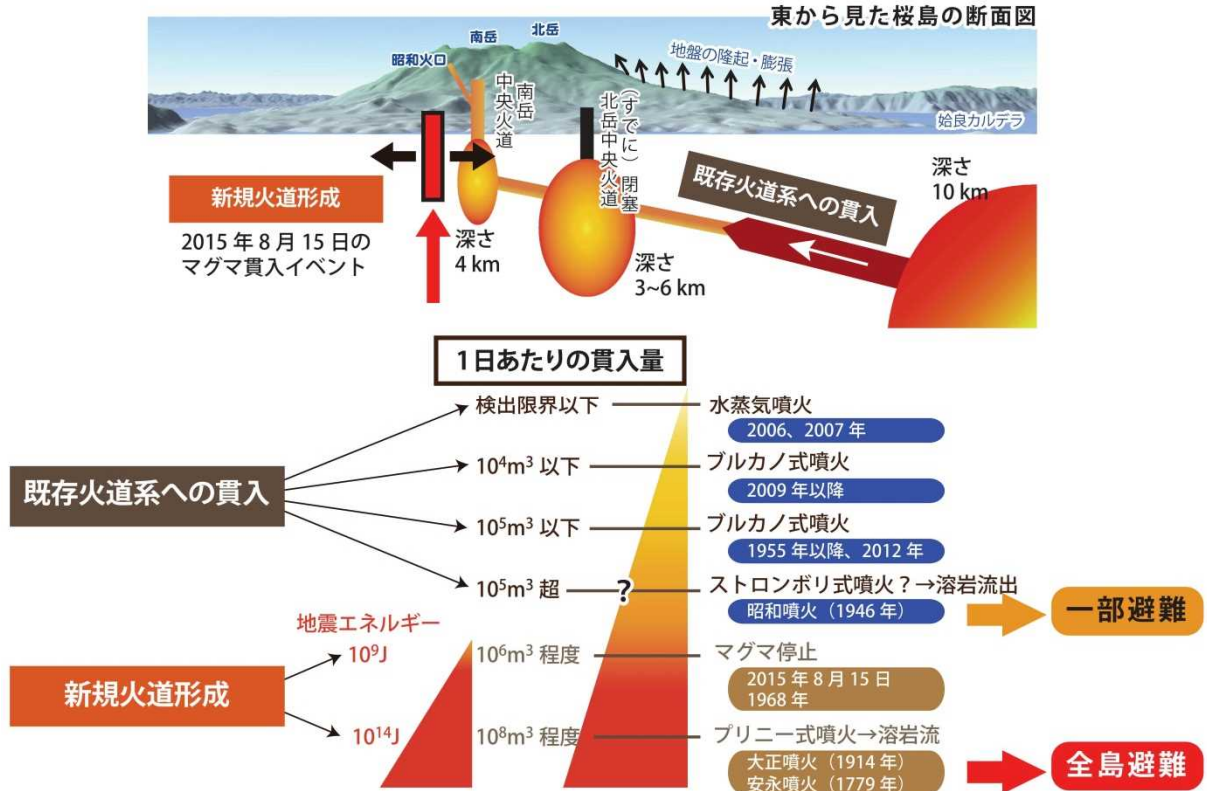


図2 桜島のマグマ供給系と避難行動のモデルを付した噴火事象系統樹

地盤変動観測から推定される桜島島内への1日当たりのマグマ貫入量と、これまでに発生した噴火事例に基づき、とるべき避難行動をまとめている。昭和噴火(1946年)の貫入量の「?」は観測データが乏しく信頼性に欠けることを示す。通常の噴火では、始良カルデラの地下約10kmのマグマ溜まりから既存の火道を使って桜島島内へマグマが供給され、噴火活動が引き起こされている。2015年8月15日には、既存火道以外にマグマが貫入し、新規に火道が形成されたが、噴火には至らなかった。この時の地震活動のエネルギーは、大噴火が発生した大正噴火に比べて小さい。